

令和2年度 第1回 「知事と語る やまなしづくり」結果概要

対話テーマ:利用者視点に立った介護サービスの提供について

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、介護の分野で活躍されている皆さまと、介護サービスの提供における課題などについて意見交換を行いました。

【日時場所】 令和2年10月13日(金) 午後2時から 県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】 介護職員関係者 10名

(主な意見等)

- 介護に携わっている人とそうでない人では、介護に対する捉え方にギャップがあるため、介護の魅力が浸透していない。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、今までどおり家族と面会できなくなったことで、利用者が寂しい思いをしているが、職員では家族の役割を担うことができず歯がゆい思いである。
- 介護、医療、福祉だけではなく、地域も連携して支えることが必要と考えるが、利用者によっては、地域に迷惑をかけたくないと考え、地域と関係性を持つことに抵抗を感じている。
- 介護専門職の技術や知識を、オンラインなどを活用することにより地域に還元し、家族の負担軽減に役立つような仕組みができないかと考えている。
- 山梨県独自の介護施設を評価する制度があれば、利用者側も安心して任せられることや、施設側としても職員の意識向上と新たな人材確保に繋がるのではないかと思う。
- 利用者視点に立つと、家族が安心して任せられるかどうかポイントになり、そのためには、介護職員のスキルアップが重要であり、研修などによる人材育成が必要である。

(知事(県)の主な発言)

- 介護の魅力を伝えるために、様々な方のご意見を伺いながら一緒に考えていきたい。
- 介護に携わる方を県は支える立場として、介護サービスを必要としている方が、その必要とするサービスを待つことなく受けられる介護の提供体制をつくっていきたい。
- いわゆる介護待機というものを、究極的に山梨県はゼロを目標に掲げることを考えていきたい。
- 介護職員が研修を受けやすい環境を整え、研修内容を充実させることが、介護の魅力や人材確保に繋がる有効な手段であることがわかった。

